

日韓問題のインバウンドへの影響について

日韓関係の悪化に歯止めがかかりません。歴史問題から経済や安全保障の分野まで対立が広がっています。訪日外国人動向においても、韓国入客の減少が報じられています。日本の景気を支えてきたインバウンドへの影響はどのようなのでしょうか。今回のCBCA NEWSで取り上げます。

2017年7月、日本を訪れた韓国入客は前年同月比で▲7.6%と減少しました。日韓関係の悪化が影響していることは確実です。しかしながら、中国を始め他国が牽引し、訪日外客総数では+5.6%と堅調に推移しました。

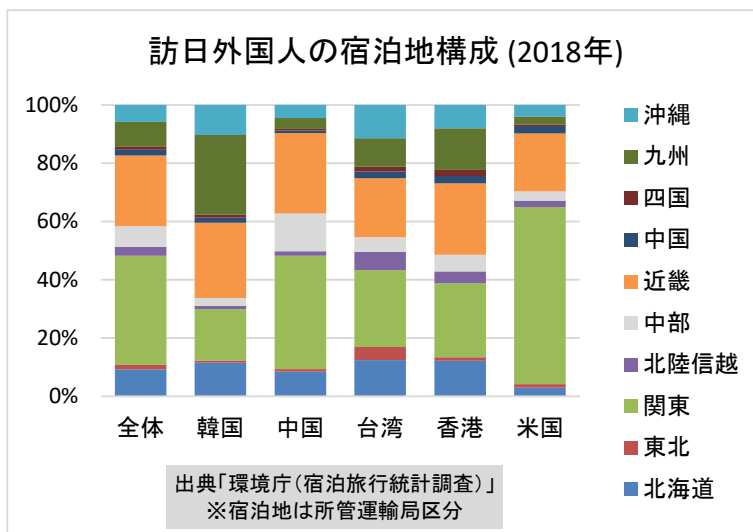
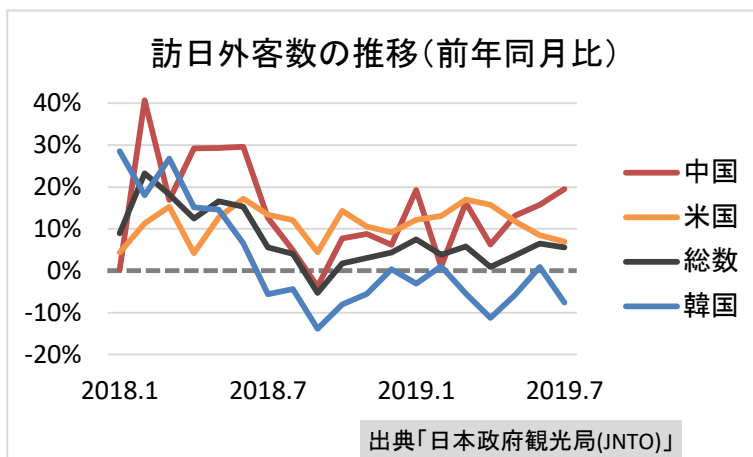
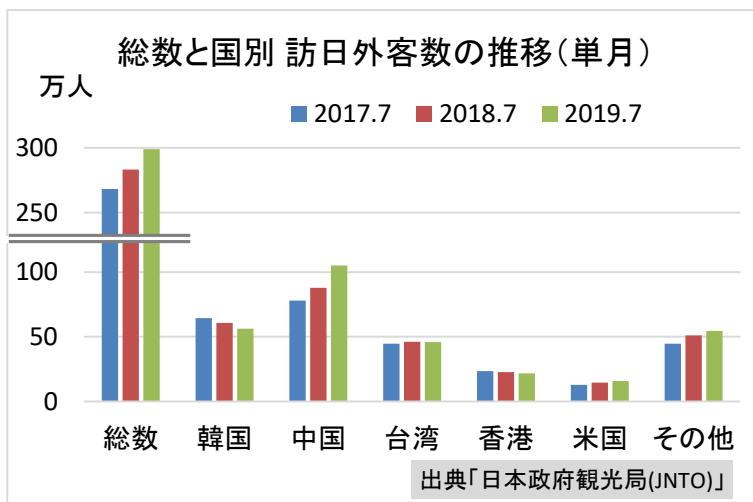
訪日韓国入客数の動向を詳しくみると、昨年の夏場以降、既に頭打ちの状態にありました。そこへ今回の騒動があり、減少が鮮明になりました。今後更なる落ち込みも予想されます。

なお、台湾や香港からの訪日客も伸び悩んでいます。一方、中国は依然として訪日客総数の増加をけん引しています。また、欧米や東南アジアからの訪日客も堅調です。

ここ近年の訪日外客数を牽引してきたのは「韓国、中国、台湾、香港」のアジア隣国でしたが、今後は「中国+欧米やアジア広域」の外客数の伸びがカギを握る構図へと移行していくでしょう。

さて、落ち込みが避けられない訪日韓国入客ですが、日本での経済的影響はどうでしょうか。

韓国入客の宿泊地として人気があるエリアは近畿、九州、沖縄などの西日本です。特に九州は、船舶での訪日も可能なことから人気が高いです。福岡を始めとした九州では、韓国の落ち込みを他国の伸びで直ちに補うのは難しく、短期的な影響は最も大きいと思われます。



次に、韓国人が日本で使うお金に目を向けてみます。

1人1回当たりの費用を見ると、韓国入客は8万円弱と、外国人客全体の約半分にとどまっています。一見、韓国人の消費額が他国と比べて少ないように見えますが、これは、韓国人客の1回当たりの滞在期間が他の外国人客の約半分(4~5日)と短いことが影響しています。韓国人客は、日本までの距離が近いことから、滞在期間が短い代わりに、訪日回数が多いことが特徴です。

韓国人客の旅行費用の主なものは、他の外国人客同様、宿泊費、飲食費、買物代となりますが、買物代が旅行費用全体に占める割合は、他の外国人客よりやや少なめです。

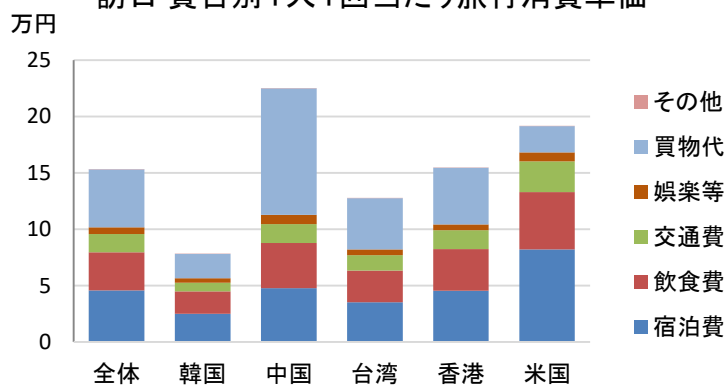
韓国人客の買物代の内訳を見ると、菓子・酒・その他食料品で約4割を占め、飲食費以外でも飲食関係に多く出費していることが分かります。

こうしてみると、韓国人にとって日本への旅行は、近くて手頃なグルメツアーといった色彩の強いことが伺えます。

さて、日韓問題のインバウンドへの影響について総括すると、九州を中心とした韓国人客の人気の高いエリアで、宿泊施設や飲食店中心に短期的な影響は避けられず、また、韓国人客に人気のお菓子やアルコール飲料メーカーの売上にも若干の影響が出るかもしれません。もっとも、ビール各社などは、むしろ韓国内での不買運動のほうが、影響が大きいです。

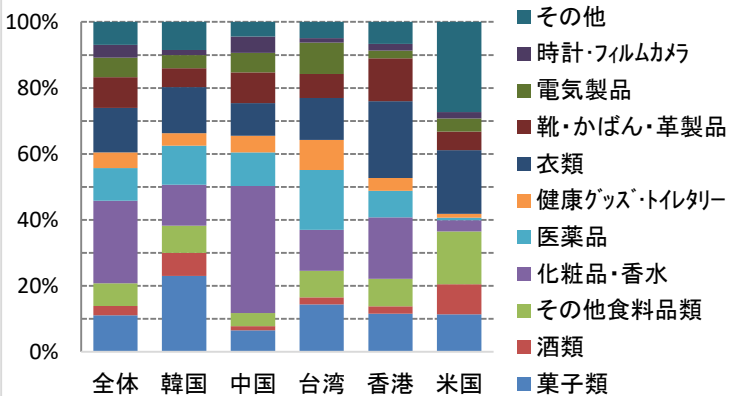
しかしながら、中国や他国からの訪日外国人客が足元堅調なことから、韓国人客の落ち込みの大部分がカバーされそうです。全体として、日韓問題のインバウンドへの影響は限定的なものに留まるのではないのでしょうか。

訪日 費目別1人1回当たり旅行消費単価



出典「環境庁(訪日外国人消費動向調査)」
※パッケージツアー参加費内訳含む

買物代の内訳



出典「環境庁(訪日外国人消費動向調査)」

一般社団法人全国経営診断士協会

〒112-0004

東京都文京区後楽 2-2-17 NBD 三義ビル

TEL: 03-3812-8211 FAX: 03-3812-8213

mail@cbca.jp

http://www.cbca.jp

お問い合わせ先